

# リズムカルで全身的な動きの楽しさを味わう子どもの育成

## ～ 小学校2年生 基本の運動

「音楽に合わせてながら行ういろいろな動き遊び」を通して～

滝澤 かほる\*<sup>1</sup> 大石 康範\*<sup>2</sup>

Total rhythmical movement study at primary school

— Joyful basic movement and play with music —

Kaoru TAKIZAWA and Yasunori Oishi

### 1 低学年「基本の運動」領域における「リズム体操」の捉えについて

低学年「基本の運動」として「リズム体操」を取り上げたいと考えた。その理由は以下の2点である。

まず、様々な年代の中でも特に低学年の子どもたちは、友だちと一緒に何かになりきったり、軽快な音楽に合わせて体を動かしたりすることを好むからである。

さらに、「リズム体操」で期待されるリズムカルで全身的な動きは、巧みな動きとして様々な運動に関わる基礎的な身体操作感覚作りにつながるからである。

滝沢は「リズム体操」の特性について、「健康増進、発育刺激、柔軟性、敏捷性、筋力、持久力などの基礎体力を高める」ことが期待できる運動、「リズムカルな全身的な動きの質を高める」運動、「どのように動くのかという運動像を想像し、自分自身の身体に目を向けて、一生懸命に思い切り動く楽しさや喜び」を味わえる運動として捉えている<sup>1)</sup>。

以上のような低学年の子どもの特性と、滝沢による運動特性とを踏まえ、「基本の運動」領域における「リズム体操」を、リズムカルで全身的な動き作りを目的とする「音楽に合わせてながら行ういろいろな動き遊び」として取り上げた。

### 2 研究の目的

基本の運動「音楽に合わせてながら行ういろいろな動き遊び」は、一連の動きの経験を通したリズムカルで全身的な動き作りがねらいである。ただ音楽に合わせて一連の動きを楽しむだけで終わらないようにしたい。そのためには特に、動きのポイントを意識しながら運動する「動き作り」が大切になると考えた。しかし、低学年の子どもたちは、意識するポイントが多かったり、言葉が説明的であったりした場合、その時は理解していても運動に入った瞬間に忘れてしまうことが多い<sup>2)</sup>。

そういった阻害要因を踏まえ、本研究では低学年の子どもたちが音楽に合わせて行ういろいろな動きに進んで取り組むとともに、動きのポイントを意識しながら「リズムカルで全身的な動き」を楽しめるための有効な方法を探りたいと考えた。

平成18年2月28日受理

\*<sup>1</sup>新潟大学教育人間科学部

\*<sup>2</sup>新潟市立米倉小学校

### 3 めざす子どもの姿

音楽に合わせてながら行ういろいろな動きに進んで取り組むとともに、動きのポイントを意識しながら「リズムカルで全身的な動き」ができる子ども

### 4 研究の内容

(1) 「リズムカルで全身的な動き」を引き出す身体操作感覚を明確にして、一連の動きの中から「動き作り」の学習で取り上げる「動き」を焦点づける。

「リズムカルで全身的な動き」を引き出すためには、基礎的な身体感覚として「足圧を感じてはづめること」、「はづみを利用しながら全身を動かせること」が大切だと考えた。滝沢も、「運動のはづみ（弾性）は、上から落ちてその力ではね返ることを意味し、着地・歩く・走る・とぶなどほとんどの運動の中に見られる。はづみによって動きの中心に力の源泉が導かれ、これが運動の中心になって末梢に伝導して、全身的な動きが現れる。」<sup>2)</sup>と述べ、「動き作り」を行う上での重要性について触れている。また、動きの心地よさも実感しやすいと考えたからである。

そこで、動き作りの学習では、子どもたちが「はづみ」の大切さに気づきやすい「走る」、「振り」、「回旋」を取り上げる。

(2) 動きのポイントを「踏んで～」という口伴奏にして伝え合うことで、準備の動きとしてはづみを意識させる。

「特定の動きを取り上げる→ビデオを使いながら、あるいは実際に動きながら、動きのポイントを子どもたちのわかりやすい言葉でおさえる」その後、「子どもどうしの教え合いの場面」や「全員で一連の動きに取り組む場面」では、動きのポイントを「踏んで（ギュ）～」という口伴奏にして伝え合う。動きの準備段階で、「はづみ」を意識することが大切だと考えたからである。なお、「走る」動きで、口伴奏では音楽に合わない箇所は、リズム太鼓を使う。

### 5 研究の方法

- ・授業実践
- ・動き作りで取り上げた「走る」「振り」「回旋」の動きが「リズムカルで全身的な動き」として高まったか。→「学習カード」、「総括的評価」<sup>3)</sup>、「教師の観察」から検証する。
- ・リズムカルで全身的な動きを通して「運動する楽しさ」が味わえたかどうか。→「総括的評価カード」の「自分の気持ち」についての項目と「教師の観察」を通して検証する。

### 6 授業の実際

(1) 単元名 2年 基本の運動「音楽にあわせていろいろな動きに挑戦しよう」

(2) 単元目標

○リズム体操を楽しんで行い、いろいろな動きをためしながら全身的な動きになるように意欲的に取り組むことができる。【関心・意欲・態度】

○リズム太鼓の音を聞いたり、口伴奏で動きのポイントを伝え合ったりしながら、動きの質を高めることができる。【思考・判断】

○はずみを契機としたリズムカルで全身的な動き方を体験しながら、「走る」「振り」「回旋」動きの質を高めることができる。【技能】

○ビデオ通して動きのポイントを見つけ、動きの発展のさせ方を知ることができる。【知識・理解】

(3) 指導計画 (全4・5時間 12月8日～12月21日)

時	1	2	3	4	5
学習 段階	<ねらい1> いろいろな動きを経験し、 リズムカルに楽しく動く。		<ねらい2> 動きを見直し、発展させて練習し、動きの質を高める。		
0分	○いろいろな動き方と一連の動きを知る。(講師依頼)	○師範ビデオを見ながら動いて楽しむ。	○一連の動きを楽しむ。	○リズム太鼓に合わせて「走る」動きを楽しむ。 ○一連の動きを楽しむ。	○リズム太鼓に合わせて「走る」動きを楽しむ。 ○一連の動きを楽しむ。
10			○師範ビデオを見て「はずみ」の動きの大切さに気付く。	○自己評価カードから「振り」の動きを学習することを確認	○自己評価カードから「回旋」の動きを学習することを確認
20	○講師と一緒に動いて楽しむ。	○動きの感想を出し合う。 ※1年生と複式の体育授業のため、「体ほぐし」として20分間行う。	○リズム太鼓で「走る」動きを練習する(全体)	○ビデオを見ながら「振り」の動きのコツを見つける。	○ビデオを見ながら「回旋」の動きのコツを見つける。
30			○一連の動きを楽しむ。	○ペアで練習する。 ・「踏んで～」の口伴奏で関わる。	○ペアで練習する。 ・「踏んで～」の口伴奏で関わる。
40	○動きの感想を出し合う。		○動きの感想を出し合い。自己評価カードを書く。	○練習を踏まえて一連の動きを楽しむ ・「踏んで～」の口伴奏、リズム太鼓を聞きながら動く。 ○動きの感想を出し合い。自己評価カードを書く。	○練習を踏まえて一連の動きを楽しむ ・「踏んで～」の口伴奏やリズム太鼓を聞きながら動く。 ○動きの感想を出し合い。自己評価カードを書く。

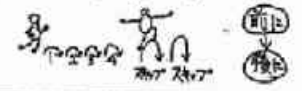
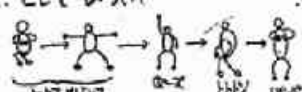
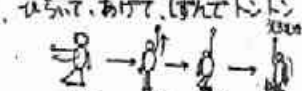



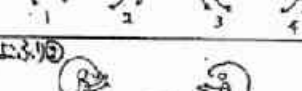
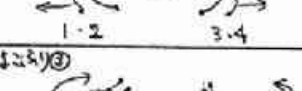
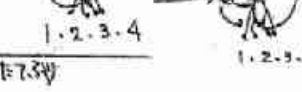

(4) 学習カード

リズムたいそう：リズムにあわせていろんなうごきをためてみましょう

なまえ

うまくうごける◎

うごける○ まだうごけない□

うごきのしゅるい	うごきのコツ	1	2	3	4	5	6	かんそう
1. トン、トン、トン、トン、スキップ、スキップ 	しかりふんで たかくはすしう。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	高くジャンプが できるうに なるときもちい
2. とびてひらいて 		◎	◎	◎	◎	◎	◎	ポーズをするのは わからなかったけ どおぼえてきた
3. ひらいて、あけて、ひらいて、トン、トン 	しかりひらんで たかくはすしう。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	ジャンプすると まわって うたえる!!
4. しげんてひらいて 		◎	◎	◎	◎	◎	◎	てくはうにま かてやいば高く あがった
5. トントン 	ゆかをトントン ふんであそぶしう。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8を2回ぐらには ちうど1111とい うとほやからな
6. おふりり 	ゆかをしかりふ ましう。 手と足をいっしょ にふりまわすしう。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	足をよくふめば かてに手がうご くことかわかた
7. おふりり 		◎	◎	◎	◎	◎	◎	きれいなまを かけました。
8. おふりり 		◎	◎	◎	◎	◎	◎	いっしょに足をふると くるきれいに まわゆる
9. 7.3.3 	ゆかをしかりふ ましう。 手と足をいっしょ にふりまわすしう。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	まわすかきと前 だからまわら かたにけどで た。
10. 1.7.3.3 	ゆかをしかりふ んでとびまわすしう。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	足をしかり ふめばくく うごかない。

## 7 授業の結果

## (1) 授業の様子 (教師の観察)

時間	授業の様子
1h	<ul style="list-style-type: none"> <li>講師を招き、動きの全体のイメージをつかむ。「よく見て動く」ことを運動のめあてにして、元気に体を動かすことができた。授業後の交流では精一杯動いた楽しさや、動き自体のおもしろさについて、多くの子が発表できた。また、講師の先生の体の動かし方がきれいで「こんなふうに動いてみたいなあ。」という感想も聞かれた。</li> </ul>
2h	<ul style="list-style-type: none"> <li>「よく見て動く」ことを運動のめあてにして「ビデオ」を見ながら繰り返し動いた。マット遊びの「体ほぐし」として約20分間運動した。最後に「だいたいできる動き」と「むずかしい動き」を聞いてみた。まだ「走る(バック)」「振り」「回旋」の動きが難しいという声が聞かれた。しかし、一連の動きの流れや、だいたいの動きのイメージをつかむことができた。</li> </ul>
3h	<ul style="list-style-type: none"> <li>一連の動きをみんなで楽しんだ後で、前時に、難しいという感想が出された「走る」動きをビデオで見た。子どもたちは、「腕をよく振っている。」「ジャンプしながら走っている。」など、おもいっきり走っていた自分の動きとのちがいに気づくことができた。「ジャンプしながら」という意見を手掛かりにして、実際に簡単な「ジャンプ」を試してみた。子どもたちは、「しっかり床を踏む」とことが、「走りながらジャンプ」する時だいじなことに気づいた。「走り」の動きの時に、しっかり踏むことが意識できるように、リズム太鼓を打つことにした。音の大きさが踏む強さであることを確認した。「走りながらジャンプ」はその後、「後ろ向きで走りながらジャンプ」の動きを取り入れながら、毎時間、一連の動きのための「体ほぐし」として授業の最初に行った。「体がポカポカして気持ちいい」という感想が聞かれた。</li> <li>学習カードを提示し、一連の動きを行ってから自分の動きを自己評価させた。自己評価後の交流で「動き作り」に意識を向けさせた。動いてみての気づきを自由に述べ合うことや、動きのポイントをみんなで考えることを確認できた。</li> </ul>
4h	<ul style="list-style-type: none"> <li>リズム太鼓を入れながら一連の動きを楽しんだ後で、前時の学習カードの結果を紹介しながら「振り」の「動き作り」を学習することを確認した。ビデオを見ながら子どもたちは「しっかり(足首が)伸びている」「手がよく伸びている」ことに気付いた。実際にやってみながら「走る」動きと同じように「しっかり床を踏む」ことが大事なことに気付いた。しっかり踏んではず力を抜いて手を振ることを動きながら確認した。はずみと手の動きが、それぞれ別の動きのポイントだと考えていた子どもたちは、「楽だなあ」という驚きの声を上げた。子どもたちから出てきた動きのポイントをつなげて「踏んでピン」という言葉で押さえた。その後、口伴奏にしてみんなで行ってみた。途中で「ギュー」の方がいいのではないかと、言い出す子が出てきた。動きのポイントを意識しながら動いている姿として全体に紹介した。</li> <li>2人一組になり、口伴奏をしながら教え合いをした。どのグループも口伴奏を手掛かりにしながら効果的な関わりが見られた。</li> <li>練習の成果をいかしながら一連の動きをみんなで行った。「走る」ところはリズム太鼓で、「振り」のところは「踏んでピン」の口伴奏を入れながら動いた。授業の最後の交流では「前よりもよく動けるようになった。」「はずんで上にのびながらふるとうまくいってうれしかった。」というような感想が聞かれた。</li> </ul>
5h	<ul style="list-style-type: none"> <li>口伴奏とリズム太鼓を入れながら一連の動きを行ってから、学習カードを紹介しながら「回旋」の動き作りを学習することを確認した。前時と同様にビデオを見ながら「やっぱりしっかり足首が伸びている」「上にピンと伸びながら手を回している」ことに気づいた。「踏んでグルン」「踏んで上」という口伴奏で押さえ2人一組で練習した。その後、グループ間で出来栄発表を行った。他のグループが運動している時、口伴奏で応援するようにした。</li> <li>最後に練習の成果をいかしながら、一連の動きを行って、「走る」動きはリズム太鼓で、「振り」は「踏んでピン」「回旋」は「踏んでグルン」の口伴奏を入れながら動いた。</li> </ul>

## (2) 動きについての子どもの自己評価：学習カードから

色の付いた項目の動きは、動き作りの学習として取り上げた。

&lt;3時間目※カードを使い始めた&gt; うまく動ける：3点 動ける：2点 まだ動けない：1点

	走る スキップ	開いて 閉じる	はずみ 回転	踏んで 伸びる	丸く 走る	横振 り小	横振り 回線	横振り 回旋大	縦振り 回旋	バラ ンス	個人 平均
S・A (男)	3	3	3	3	3	3	3	3	2	1	2.7
S・A (女)	2	3	3	2	2	2	1	3	2	3	2.3
M・O (男)	3	2	1	1	2	2	3	3	3	2	2.2
K・S (女)	3	3	3	3	3	3	2	3	2	3	2.8
W・S (女)	3	3	2	3	2	3	3	2	1	2	2.4
N・T (男)	3	3	1	2	3	2	2	2	1	2	2.1
Y・H (女)	3	2	3	2	3	2	3	3	3	3	2.7
H・H (男)	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	2.9
K・W (男)	3	2	2	3	2	2	3	1	2	1	2.1
Y・W (女)	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2.8
平均得点	2.9	2.7	2.4	2.5	2.6	2.5	2.6	2.6	2	2.2	2.5
分散値	0.09	0.21	0.64	0.45	0.24	0.25	0.44	0.44	0.4	0.56	

&lt;5時間目&gt;

	走る スキップ	開いて 閉じる	はずみ 回転	踏んで 伸びる	丸く 走る	横振 り小	横振り 回線	横振り 大	縦振り 回旋	バラ ンス	個人 平均
S・A (男)	3	3	3	3	3	2	2	1	2	1	2.3
S・A (女)	3	3	3	3	3	3	2	3	3	3	2.9
M・O (男)	3	2	3	3	3	3	3	2	2	3	2.7
K・S (女)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
W・S (女)	3	3	3	3	2	3	3	3	3	3	2.9
N・T (男)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
Y・H (女)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
H・H (男)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
K・W (男)	3	2	3	2	3	2	3	2	3	2	2.5
Y・W (女)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
平均得点	2.9	2.7	2.9	2.8	2.8	2.7	2.7	2.5	2.7	2.6	2.73
分散値	0.09	0.21	0.09	0.16	0.16	0.21	0.21	0.45	0.21	0.44	

↑  
↑  
↑  
↑  
↑  
↑  
↑  
↑  
↑

## (3) 動きについての感想：学習カードから

動きの種類	学習カードに書かれていた感想
走る・スキップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・走ってからスキップしたら高くとべた。 ・おもしろい動きだった。</li> <li>・頑張ってきた。・体があつたかくなった。</li> <li>・高く弾むのがなかなかできなかった。 ・高くジャンプできるようになって気持ちいい。</li> <li>・最初は上手くできなかったが、2回友だちと練習したらできた。(家でも練習した)</li> </ul>
丸く走る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8を二回数えた。・ジャンプが入って楽しい。 ・トントンが16回だとわかった。</li> <li>・ただ走るのではなくはずんだら上手くできた。</li> </ul>
横振り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手足を一緒に動かしたら上手くいった。 ・おもしろい動きだった。</li> <li>・難しいと思ったけれどもできた。 ・足を強く踏めば勝手に手が動くことがわかった。</li> <li>・足と手を使ったらうまく運動できた</li> </ul>
横振り・回旋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・床を踏んで大きく揺らすと上手くいった。 ・きれいに丸をかくことができた。</li> <li>・友だちと練習して楽しかった。 ・思ったよりも簡単だった。</li> </ul>
縦振り・回旋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと練習したら上手くなった。 ・回すのが後ろ前で難しかったができた。</li> <li>・練習したらちょっと出来るようになった。</li> <li>・手を前後ろで合わせるところが難しいけれども、おもしろい動きだった。</li> <li>・上手にできるようになって嬉しい。 ・Y・Wに教えてもらったらできるようになった。</li> <li>・最初ぜんぜんできなかったけれども、少しずつできるようになって嬉しい。</li> </ul>

## (4) 診断的評価と総括的評価の比較

		1時間目 診断的評価		5時間目 総括的評価		
		平均 値	分散 値	平均 値	分散 値	有意差 検定
1)	「自分の気持ち」について					
1	自分は勝ち負けや記録とは関係なしに運動そのものが楽しい。	4.7	0.41	4.5	1.45	0.346
2	ありのままの自分が好きだ。	4.3	0.61	4	1.4	0.271
3	運動によって新しい自分を発見できる。	4.3	1.61	3.7	1.61	0.070
4	自分の今の気持ちはおだやかである。	3.6	1.04	4.1	0.89	0.190
5	自分の心と体はほぐれていると感じる。	3.7	1.41	4.8	0.16	0.003
6	自分の気持ちは生き生きしていると感じる。	4.4	0.24	4.5	0.85	0.363
	次元評価	4.296	1.034	4.267	1.196	0.41
2)	「仲間とのかかわり」をどう思うかについて					
1	課題を達成するには、仲間全員の力が必要だ	4.5	0.65	4.6	0.44	0.296
2	体育の学習では「みんな」と一緒に運動している。	4.5	1.05	4.5	0.65	0.5
3	一人でするよりも協力してもらった方がよりよいものができる。	4.2	1.36	4.5	0.45	0.248
4	運動をする時、自分も仲間の力になっている。	3.3	1.21	3.9	0.89	0.056
5	運動によって仲間とのつながりがより深まる。	4.1	0.89	4.3	0.81	0.331
6	運動をする時は、仲間と協力し合っている。	4.2	1.36	4.2	1.56	0.5
	次元評価	4.133	1.249	4.333	0.856	0.163
3)	「自分の動き」をどう思っているかについて					
1	運動中の自分の動きにはリズムがある。	2.5	2.65	4.4	0.64	0.007
2	運動中の自分の動き一つ一つにはアクセント(強弱)がついている。	2.5	1.65	4.6	0.64	0.002
3	運動中、自分ほからだ全体で動いている。	3.3	2.61	4.4	0.64	0.042
4	運動中の自分のからだは、素晴らしい動きをしている。	3.2	0.36	3.8	0.96	0.026
5	運動中の自分の動きは、生き生きとしていると感じる。	3.7	0.61	4.3	0.61	0.084
6	運動中、自分ほからだのうごきに集中している。	3.2	0.96	4.3	1.01	0.024
7	運動中、自分は大きな動きをしている。	3.7	0.61	4.5	0.45	0.026
8	運動中の自分の動きには、自分らしさが出ている。	3.1	0.69	4.1	0.89	0.016
9	自分は格好良さよりもからだ全体で動くことを大切にしている。	4	2	4.3	1.61	0.217
	次元評価	3.244	1.585	4.3	0.877	0.006
4)	「仲間の動き」をどう思うかについて					
1	仲間の動きの中に、その人らしさを見つけることができる。	3.4	2.44	4.2	0.76	0.135
2	仲間の動きの中に、動きのよさを見つけることができる。	3.6	1.64	4.3	0.61	0.121
3	仲間の動きの中に、動きのリズムを感じる事ができる。	3.2	0.96	4.3	1.21	0.038
4	仲間と自分の動き方に、違いを見つけることができる。	3	2.2	4.3	0.81	0.035
5	仲間の動きの中に、生き生きとした動きを見つけることができる。	3.1	0.89	3.9	1.09	0.091
6	仲間の動きの中に、動きの美しさを見つけることができる。	3.5	1.85	4	0.8	0.1222
	次元評価	3.3	1.71	4.167	0.906	0.047
5)	「音楽を使って、仲間と一緒に動く運動」について					
1	音楽を使って開いて運動すると、自分の音楽についての理解が深まる。	3.7	1.61	4.6	0.44	0.041
2	音楽を使って運動すると、自分のやってみよう運動が思いつく。	3.3	1.81	4.1	0.69	0.035
3	音楽を使って運動すると、自分が仲間と一体になって動いていると感じる。	4	0.6	4.1	1.49	0.424
4	音楽を使って運動すると、自分が音楽に溶け込んでいると感じる。	2.4	1.24	4	0.8	0.001
5	音楽を使って運動すると、音楽に自分の動きがぴったりと合っている感じがする。	2.6	1.84	4.2	1.56	0.007
6	音楽を使って運動すると、自分の動きがより生き生きしてくると感じる。	2.9	2.29	4.3	0.61	0.025
7	音楽を使って運動するときは、仲間と調和して動くことが大切である。	3.9	1.69	4.3	1.01	0.135
8	音楽を使って運動すると、グループの一人一人のよさが生かされる。	3.7	1.41	4.3	0.61	0.070
	次元評価	3.313	1.89	4.238	0.931	0.009

注) 全体 (n=10)、 \* : p&lt;0.05



## 8 成果と課題

### (1) 成果

- ・単元を通して音楽に合わせて一連の動きで精一杯動いたり、友だちと協力しながら一生懸命に動き作りに取り組んだりする姿が見られた。総括的評価の「自分の気持ち」について「自分の今の気持ちはおだやかである。」と「自分の心と体はほぐれていると感じる。」の項目における平均点の高さにも表れている。子どもたちは、リズムに合わせていろいろな動きを経験することで、十分に運動する楽しさを味わうことができたと思われる。
- ・学習カードの結果から、授業で取り上げた「走る」「振り」「回旋」などの動きはすべて平均点が高く、分散値が小さくなっていた。学習を通じて底上げが図られたということである。また、総括的評価の中の「自分の動きをどうおもっているか」について9項目中7項目で5%水準の有意差が見られた。以上のことから、「動き作り」の学習で取り上げた動きを通して、子どもたちは、音楽に合わせてリズムカルに動けるようになったことを実感できたと思われる。
- ・学習カードの中で、H・Y(女)、H・H(男)、Y・W(女)、W・S(女)の4人は「ただ走るのではなく、はずんだらうまくいった」「足を強く踏めば勝手に手が動くことがわかった。」「足と手を使ったらうまく運動できた。」「床を踏んで大きく揺らすと上手くいった。」といった動きのポイントについて感想をたくさん書いていた。さらに、H・H(男)は、W・Y(女)の口伴奏で教えてもらい、「友だちから教えてもらってできるようになったことがうれしい。」とも書いていた。他の子どもたちもグループの学習で、口伴奏を通して活発に関わり、発見した動きのポイントを伝え合おうとしていた。はずみを契機とした全身的な動きの心地よさを味わうことができていたからだと思われる。また、総括的評価の「仲間の動きをどう思うかについて」では2項目で、「音楽を使って、仲間と一緒に動く運動について」では、5項目において5%水準の有意差が見られた。教師から見ても、動き作りの学習で取り上げた「横振り・回旋」「縦振り・回旋」は、はずみを契機としたリズムカルで全身的な動きが見られるようになった。以上のようなことから口伴奏(リズム太鼓)を通じた伝え合いは、低学年の子どもたちが動きのポイントを意識しながら運動する上で有効であったと思われる。

### (2) 課題

- ・動きのポイントは子どもたちと発見しながら子どもの言葉でまとめていきたいと考えた。「動き作り」に対する雰囲気を醸成するために、一連の動きの後は動きっぱなしではなく、動いた感じを聞き出して個々の気づきを全体に広げたり、動きの課題をはっきりさせたりして交流の時間を設定した。しかし、学習の時期に寒い日が続いたため、交流の場で寒がる子がたくさんいた。交流の時間と運動時間とのバランスが難しかった。

(本研究は、平成15～17年度文部科学省科学研究費「感性教育のためのリズムカルムーブメント・プログラムの開発(研究代表者:滝沢かほる)」研究成果報告書平成18年3月に掲載した。)

#### <引用・参考文献>

- 1) 滝沢かほる 編著「体操の学習指導」不昧堂出版 1997年 12頁
- 2) 筑波大学初等教育研究会 編集「2006年 教育研究 3月号No1249」不昧堂出版 2006年 62頁  
『相発的動機付け』を持たせる体育授業の試み - 清水 由『口伴奏でお手伝い』
- 3) 滝沢かほる 編著「体操の学習指導」不昧堂出版 1997年 18頁
- 4) 滝沢かほる・阿保 雅行・小林日出至郎 「感性教育のための体育学習に関するアンケート研究 -リズムカル・ムーブメント・プログラムの開発を目的として-」新潟大学教育人間科学部紀要 第8巻第1号 2005年 97-116頁